

2022年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200123	事業の開始年月日	2010年 1月15日	
		指定年月日	2010年 1月15日	
法人名	株式会社テンダー			
事業所名	グループホームあったかいご燕沢東 ユニット：つばめ棟			
所在地	(〒983-0822)			
	宮城県仙台市宮城野区燕沢東3丁目20-32			
サービス種別及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年8月21日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 中嶋病院在宅部門や東部訪問看護ステーションと密に連携を取り、24時間体制で入居者さまの健康管理に取り組んでいる。 2. 毎月季節ごとの行事の企画を実施し、入居者さまに喜んで頂けるように取り組んでいる。 3. 昨年よりネパール研修生4人が施設で仕事を始める。今後は外国人労働者にも受け入れられる施設づくりに取り組んでいきたい。 4. あったかいご燕沢東ブログを毎月1回程度更新し、施設内での利用者さまの状況や様子を広く知ってもらえるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	令和4年8月31日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 理念は『「ありがとう」の言葉で感謝の気持ちを伝えます』である。職員は、理念とユニット毎の年度目標を基に、利用者本位のケアに努めている。</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 ホームは、国道4号線仙台バイパスに程近い住宅地の一角にあり、周辺には公園やコミュニティセンター、小学校、保育園、協力医療機関や特別養護老人ホームなどがある。株式会社テンダーが2010年1月に開所した木造平屋建て2ユニットの施設である。母体法人は、宮城県を中心にグループホームやデイサービスなどを運営している。また、中庭は散歩や外気浴などができるコミュニティースペースになっている。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 職員は、各委員会に属し、施設運営に主体的に関わっている。管理者は、外国人研修生を受け入れるなど、介護の現場を担ってもらえる外国人職員も働ける施設づくりを目指しており、離職者も少なくなった。敷地内には畑があり、利用者は育てること収穫すること食べることを楽しんでいる。「あったかいご燕沢東ブログ」でホームの情報、利用者の笑顔を発信するなど開かれた施設である。</p>

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	11 ~ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	16 ~ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ~ 68	

事業所名	グループホームあったかいご燕沢東
ユニット名	つばめ棟

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいご燕沢東 ）「ユニット名 つばめ棟 」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念「ありがとうございますの言葉で感謝の気持ちを伝えます」を基にユニットごとの会議で入居者さまにとっての利益を検討している。	理念は、開所時に職員の話し合いで作られたものである。理念の他に、ユニット毎の年度目標を立て、つばめは「一致団結」、うぐいすは「笑顔で穏やかに安心して過ごせる空間づくりをする」をもとに利用者の支援に努めている。ユニット目標は毎年振り返り、次年度の目標を決めている。理念、目標は各ユニットに掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センターが主体となっているチームつばめに参加し、事業所として地域に貢献をするよう取り組んでいる。	町内会に加入し、コロナ禍前には避難訓練など相互案内したり、手品や歌、そば打ちなどのボランティアが来訪し交流していた。現在は、地域包括が主催する認知症にやさしい地域づくりプロジェクト「チームつばめ」に参加し、小学校での認知症の理解につながる寸劇などにも関わり、地域のさまざまな人とのつながりができ、ホームの理解に繋がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を活用し、家族様に豆知識として発信していたが、最近では興味のある単語やコロナに関するワードに変わってきていた。来所時や電話対応にて認知症に関連することを聞かれた際、そのつど対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、訪問は控えて頂いているが、役員の方に事故報告や人事、コロナ状況等を紙面を送らせてもらい、アドバイスとともに返信をもらって運営にあたっている。	年6回、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括所長、ホーム管理者が参加し開催していたが、コロナ禍のため書面での開催になっている。入居状況や各委員会(事故対策・行事・環境など)の報告などを送付し、毎回、報告内容について意見や要望など出され、運営に活かしている。	家族代表が、利用者の退所により欠員となった。家族の意見や要望を運営に反映させ、サービス向上に活かすためにも、今後も家族の方に委員になってもらうことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の大半が生活保護の方であることから宮城野区保護課とより密に話をしている。また、地域包括支援センターの職員へは運営推進会議を通し、毎回意見を頂いている。	地域包括所長が運営推進会議のメンバーであり、ホームとの連携が図られている。市へは、生活保護の利用者について相談したり、市からは、毎月メールでコロナや感染症などの情報が届く。外部評価結果と目標達成計画書は市に郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会会議やテnder本社より「ジョブメドレーアカデミー」動画を利用して職員の勉強会の支援を行うことで理解を深めている。	身体拘束の適正化等の指針を作成し、身体拘束委員会を3ヶ月毎に、管理者と各ユニットリーダー、職員が参加し開催している。会議録を全職員に回覧し周知している。また、研修は「ジョブメドレーアカデミー(オンライン動画研修サービス)」を活用し各自で行い、管理者が確認している。外出傾向にある利用者には、中庭の草取りを一緒に行うなど気分転換を図っている。施錠は20:00から翌朝6:00まで、安全に配慮して玄関センサーや居室の人感センサーを使うこともある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	勉強会や上記に述べた「ジョブメドレーアカデミー」を利用し、虐待防止に努めている。また、年間の必須勉強会でも時間も割いて日頃から不適切ケアが行われないよう考えている。	高齢者虐待について関連法や認知症ケアについて「ジョブメドレーアカデミー」で研修を行っている。不適切な言葉遣いやケアについて、職員同士で注意している。年1回の職員面談で、希望や悩みを聞いている。また、日常的に職員同士、ユニットリーダー、管理者に気軽に相談できる環境ができている。職員の様子がおかしいなど感じた時には管理者から声がけし、悩みを聞くなど虐待に繋がらないよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現状学ぶ機会がなく、動画サービス「ジョブメドレーアカデミー」で理解に努める。今後、身寄りのない方に成年後見人をつける予定であり、色々と話を伺い、今後の支援に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書とともに説明を行い、変更、改定の際にはその都度説明により、理解、了承を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓越し面会での訪問の際に話を聞いたり、メールや電話でのやりとりを行い、意見を伺っている。	コロナ禍で面会が制限されており、家族の意見や要望を聞く機会が限られ、主に電話やラインのやり取りで行っている。衣類の交換、コロナワクチン接種などの質問が寄せられている。外出や外泊の問い合わせがあるが、現在は行っていない。運営推進会議の家族代表が欠員になり、委員になってくれる家族を検討している。家族会はない。	家族アンケートでは、本人の満足度や外出支援への努力について「わからない」との回答があった。コロナ禍で家族とのコミュニケーションを取るのには難しい状況にはあるが、今まで以上に家族とのつながりを深めることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や年間に2回（本社での意見吸い上げ、施設での定期面談）意見を汲み取る機会を設け、要望を聞いている	年1回の職員面談や2ヶ月毎のユニット会議で、職員の意見、要望を聞いている。職員は各種委員会（環境・感染症対策・事故対策・身体拘束・行事・給食・防災・車両・備品担当など）に属し、運営の中心を担っている。食事形態の変更の提案により、むせ込みが見られなくなった事例や、歩行・転倒の危険についての話し合いで環境整備に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得の為の受験費用助成にとどまらず研修受講費用助成も実現させ、また職員それぞれが抱える状況での勤務を実現している		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部学習用「ジョブメドレーアカデミー」を職員に提供し、時間がすいた際に気軽に行えるように機会を提供している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で交流機会をなかなか与えることができていないが、10月下旬より他事業所への交換研修、チームつばめを通して交流の機会を設けている。	地域包括支援センター主催の「チームつばめ」に参加することで同業者などとの交流もでき、ネットワークが広がった。法人内での交流や異動により、他事業所の運営を学び参考にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に収集した情報を基に介護計画をスタートさせるが、その後も観察、聞き取りを継続し再アセスメントすることで課題をより明確にしよりよいケアに繋げてゆく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや調査時においてご本人の情報収集にとどまらず 現状の困りごと、不安なことをお聞きしてともに解決策を考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プラン後の再アセスメントで課題解決の優先順位を明確にしケアプランに落とし込み支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることに着目し可能な限り家事など役割を分担し関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても中庭からの面会やリモートを使った面会を実施して直接的なものではないが行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等で馴染みの場所にはいけないが、リモートを使ったタブレットをつなぎ支援に努めていきたい。	コロナ禍前には、近くにある馴染みの食堂やスーパーでの買い物を楽しんでいた。協力施設の花火大会見学もコロナ禍で中止となり、中庭で行った花火を録画してみんなで見ている。今後は外の風景の動画などを視聴することで、行った気分になれる「バーチャル外出」なども検討している。理美容の訪問は、コロナ禍前には行われていたが、現在は、理美容経験の職員が家族同意のもとで行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮しリビング内での席位置など配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、問い合わせがあれば退所後であっても出来る限り、相談や支援に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の希望やご意向を聴取するが叶わない場合や逸脱する場合にはあくまでご本人の利益を代弁する立場として支援していく。	本人の思いや意向は実態調査で把握するようにしている。入居後は、日々の生活の中から意向を把握し、3ヶ月毎のモニタリングで振り返りを行っている。本人が希望することは、危険なこと以外は実践に繋げている。思いや意向の把握が困難な利用者には、声かけや表情から把握し意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前聞き取りにとどまらず、ご家族等面会時においても随時情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より状態変化に留意し観察を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの移行聴取はもとより日々近くで接しているスタッフとのカンファレンスにより課題を導きだし計画に反映させている。	ユニット毎に担当職員の意見を基にカンファレンスやケア会議を開催し、往診医や訪問看護師、家族の意見を反映したケアプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月に1回見直しを行っている。また、体調の変化に応じて、都度見直している。見直し後は家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や適宜スタッフから情報提供を受け意見を求め計画に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず可能な限り便宜を図り暮らしを支えていくものと心している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域包括などから地域情報を得、行事、防災での参考にしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週1度の訪問診療と週に1度の訪問看護により健康管理が行われている。また、必要に応じて専門の病院に職員、家族さまとともに受診に伺い適切な治療を行えるよう支援に努めている	入居時に、日常の健康管理や夜間帯の救急対応について説明し、家族に協力医をかかりつけ医とすることを話して了解を得ている。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護師による健康管理は、利用者や家族の安心に繋がっている。専門医への受診は、家族と一緒に職員も同行し、適切な治療が受けられるよう支援している。受診後の情報は、職員間で回覧し共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面の気づきについて相談先として助言を求め日常のケアに生かしている。必要に応じ訪看より医師への連絡も行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院の地域医療連携室と連携を行うこととしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明了解を得るとともに、重度化した際には、医師、ご家族、施設で再度方針を協議し文書による意思確認を行っていく。また、往診契約時には家族様へ医師の方から終末期についての説明が行われている。	入居時に「重度化および看取りに関する指針」を説明している。重度化にともない再度、家族、医師、施設で話し合い意向確認している。利用者や家族との信頼関係、医療機関との連携ができており、ホームで終末期を迎える利用者も多い。職員はユニット毎に「看取りに関する研修」を行っている。故人を見送る際には、他の利用者にも配慮している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で人が密になる状況での実施が難しく行われていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が薄手の夜間を想定し年2回の避難訓練を実施。今年度はコロナ禍のこともあり、消火器取り扱い訓練は行っていない。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、防災委員会を中心に年2回夜間想定での避難訓練を実施している。夜間の地震体制も整備されている。設備点検は年2回業者が行い、非常用食料は3日分保管されている。感染対策マニュアルも作成され、感染が発生した場合には陰圧室が作れるよう陰圧機も備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	若年性認知症の方もおられ羞恥心や自尊心に配慮したケアや接遇を求め信頼関係が出来ても一定の節度をもって接することとしている。	苗字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。接遇やプライバシー保護の研修は、新人教育をはじめ、年間研修で繰り返し行っている。排泄介助はさりげなく居室などに誘導し対応している。身体拘束委員会でスピーチロックについて「命令や禁止口調はどんな時に出やすいか」「ストレス解消の方法は」などを話し合い、より良いケアについて検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コンプライアンスルールを推奨し、職員からの一方的な支援にならないように気を付けて声を掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されることなく、ご本人のペースを尊重し寄り添えるよう心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームをつけたり、髪留めをつけたりと支援行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年中行事に合わせた行事食の提供や予定に固執することなく希望のメニューが可能な限り提供しており可能な方には取り分けや下膳をお願いしている。	朝食は職員が作り、昼食と夕食は業者に委託している。一人ひとりの好みを把握しメニューに取り入れたり、「食品10品目シート」を活用して栄養バランスのとれた食事を提供している。中庭の畑の野菜も利用している。行事食は行事委員会が計画し、お正月、ひな祭り、花見、土用のうなぎ、クリスマスなどの料理を楽しんでいる。希望によりお寿司の出前をしてもらうこともある。利用者と一緒に盛り付けや後片付けなど楽しみながら行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「低栄養改善10品目シート」を活用し栄養バランスを考慮しつつ水分摂取については常に代替品の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより歯磨きを行うが不十分な方については職員が仕上げを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレ排泄を支援、排泄状況表を利用して排泄パターンや失禁状態の把握に努め、トイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの残存能力や排泄パターンを把握し、夜間も含め声がけやトイレ誘導を行い、トイレで排泄できるよう支援している。便秘対策として体を動かすレクリエーションを多く取り入れたり、乳製品や料理にオリブオイルを使うなどしている。医師の処方をもとに薬を服用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、間隔を把握し、医師、看護師の指導のもと水分摂取や運動により防止、改善に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴が出来るよう支援体制はとっているが、ご本人状態や意向により柔軟に対応している。また以前未設置のリフトを設置し多くの方が湯舟に入れるよう対策を施した。	入浴は週2回が基本で、季節に応じて桃湯や柚子湯などを楽しんでいる。お湯は必要に応じて替え、好みの湯温で入っている。浴槽にリフトを設置し、車椅子などの利用者も湯船に入れる対策がとられた。入浴拒否の利用者には、無理強いせず、タイミングを見て声がけしたり、家族からも声がけをしてもらうなどしている。お風呂で歌いたい人用にラジカセも用意している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に低下している方は医師指示により積極的に休息時間を設けることが基本的にはご本人の生活ペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに袋に管理し1日分毎にセット、飲み込みまでを服薬介助としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまそれぞれに役割を持ってもらい、茶碗洗いや茶碗拭き、洗濯量やお盆拭き等を手伝ってもらい、午後からはレクリエーション提供を行い、笑顔が常時みられている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭にての日光浴や玄関先までの散歩を行っている。不安が強い方へは道路散歩も行っているが、基本的にコロナが落ち着くまでは自粛につとめる。	コロナ感染対策のため、外出は自粛しドライブが中心になっている。ドライブには車椅子利用者も一緒に出かけている。花見ドライブでは、人が少ない所で車から降りて写真を撮るなどした。紅葉狩りドライブも計画している。中庭での花や野菜作り、草取り、敷地内の散歩、また室内レクリエーションを増やすなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば少額を自己管理いただき使う場面では職員が付き添い助言見守る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保有することに制限はなく自らかけられるのであれば職員が支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	10年以上経過した建物ではあるがリフォームを行い清潔保持はもとより広い空間を維持、浴室には入浴リフトを設置するなど利用される方々の利便性に配慮し運営している。	リビングには天窓があり、日当たりが良く気持ちの良い空間になっている。中庭には、両ユニットから出入りができる。リビングの壁には、日めくりカレンダーや時計、季節に応じて利用者の作品が飾られるなど環境委員会を中心に工夫している。カラオケはテレビにつなげることができ、朝から楽しんでいる利用者もいる。温・湿度、換気の管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居当初こそ居場所の確保として席を決めて対応したが、いまはそれぞれの方がそれぞれに座り、暮らしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の身の回り品については出来れば新調せず使い慣れたものをご持参いただくようお願いしておりテレビなどの持ち込みについても制限を設けていない。	居室には、ベッド、カーテン、クローゼット、洗面台、エアコン、ナースコール、スプリンクラー、火災報知器が備え付けられている。入居時に馴染みの布団やぬいぐるみ、位牌などを持ち込み安心して暮らせるよう工夫している。入り口には表札や利用者の作品が飾られわかりやすい工夫がされている。また、利用者の要望で写真つきの職員一覧表を貼っている部屋もある。職員が掃除や温・湿度、換気の管理を行っている。季節毎に衣替えの衣類を家族に持参してもらい、職員が入れ替え整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす自走であったり、介助による歩行、家事・炊事の手伝い、洗濯物たたみなど出来ることを生活リハビリと捉え継続していけるよう配慮支援している。		

2022年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495200123	事業の開始年月日	2010年 1月15日	
		指定年月日	2010年 1月15日	
法人名	株式会社テンダー			
事業所名	グループホームあったかいご燕沢東 ユニット：うぐいす棟			
所在地	(〒983-0822)			
	宮城県仙台市宮城野区燕沢東3丁目20-32			
サービス種別及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年8月21日	評価結果市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>1. 中嶋病院在宅部門や東部訪問看護ステーションと密に連携を取り、24時間体制で入居者さまの健康管理に取り組んでいる。</p> <p>2. 毎月季節ごとの行事の企画を実施し、入居者さまに喜んで頂けるように取り組んでいる。</p> <p>3. 昨年よりネパール研修生4人が施設で仕事を始める。今後は外国人労働者にも受け入れられる施設づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>4. あったかいご燕沢東ブログを毎月1回程度更新し、施設内での利用者さまの状況や様子を広く知ってもらえるよう取り組んでいる。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2022年8月31日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の理念】 理念は「『ありがとう』の言葉で感謝の気持ちを伝えます」である。職員は、理念とユニット毎の年度目標を基に、利用者本位のケアに努めている。</p> <p>【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 ホームは、国道4号線仙台バイパスに程近く、周辺には公園やコミュニティセンター、小学校、保育園、協力医療機関や特別養護老人ホームなどがある住宅地の一角にあり、2ユニットの木造平屋建てである。また、中庭は散歩や外気浴などができるコミュニティスペースになっている。母体法人である株式会社テンダーは宮城県を中心にグループホームやデイサービスなどを運営しており、2010年1月に当ホームの運営を開始した。</p> <p>【事業所の優れている点・工夫点】 職員は、各委員会に所属し、ホームの運営に主体的に関わっている。外国人研修生を受け入れるなど、管理者を中心に介護の現場を担ってもらえる外国人職員も働ける職場環境づくりを目指しており、離職者も少なくなった。利用者が役割を持って、楽しく生活できるよう取り組んでいる。敷地内には畑があり、利用者は花や野菜を育て、季節ごとの旬の食材を収穫し楽しんでいる。「あったかいご燕沢東ブログ」では、活動の様子や利用者の笑顔など情報発信を行い開かれたホームである。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	11～15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	16～22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56～68	

事業所名	グループホームあったかいご燕沢東
ユニット名	うぐいす棟

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいご燕沢東 ）「ユニット名 うぐいす棟 」

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	独自の理念「ありがとうございますの言葉で感謝の気持ちを伝えます」を基にユニットごとの会議で入居者さまにとっての利益を検討している。	ホーム理念は、開所時に職員で話し合い作られたものである。理念を基に、ユニット毎に『つばめ』は「一致団結」、『うぐいす』は「笑顔で穏やかに安心して過ごせる空間づくりをする」と、各年度目標を立て利用者の支援に活かしている。各ユニットに目標を掲示し、毎年振り返り、次年度の目標を職員で話し合い決めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域包括支援センターが主体となっているチームつばめに参加し、事業所として地域に貢献をするよう取り組んでいる。	町内会に加入しており、コロナ禍前には避難訓練など案内したり、手品や歌、そば打ちなどのボランティアが来訪し交流していた。現在は、地域包括支援センターが主催する認知症にやさしい地域づくりプロジェクト「チームつばめ」に参加し活動している。小学校で行われた、認知症の理解につながる寸劇などにも関わり、地域のグループホーム・薬局・町内会役員・民生委員等さまざまな人とのつながりができ、ホームの理解に繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報誌を活用し、家族様に豆知識として発信していたが、最近では興味のある単語やコロナに関するワードに変わってきていた。来所時や電話対応にて認知症に関連することを聞かれた際、そのつど対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、訪問は控えて頂いているが、役員の方に事故報告や人事、コロナ状況等を紙面を送らせてもらい、アドバイスとともに返信をもらって運営にあたっている。	年6回、家族代表、町内会長、民生委員、地域包括所長、ホーム管理者が参加し開催していたが、コロナ禍のため書面での開催になっている。入居状況や各委員会(事故対策・行事・環境など)の活動報告などを送付し、毎回、報告内容について意見や要望など出され、運営に活かしている。	再度欠員になった家族代表を早急に選出し、家族の意見や要望を運営に反映させ、サービス向上に活かすことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の大半が生活保護の方であることから宮城野区保護課とより密に話をしている。また、地域包括支援センターの職員へは運営推進会議を通し、毎回意見を頂いている。	地域包括所長が運営推進会議のメンバーであり、ホームとの連携が図られている。市の担当者に生活保護の利用者について相談したり、市からは、毎月メールでコロナなどの感染症について情報が届く。外部評価結果と目標達成計画書を市に郵送している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会会議やテnder本社より「ジョブメドレーアカデミー」動画を利用して職員の勉強会の支援を行って理解を深めている。	身体的拘束の適正化等の指針を作成している。3ヶ月毎に管理者と各ユニットリーダー、職員が参加し、身体的拘束等適正化委員会を開催している。会議録を作成して全職員に回覧し周知している。また、研修は『オンライン動画研修サービス』を活用し各自で学び、管理者が確認するなど、自己研鑽に努めている。外出要求が強い状況時は、中庭で一緒に草取りを行うなど、気分転換を図っている。施錠は20:00から翌朝6:30までで、安全を配慮して玄関センサーや居室には人感センサーを使うこともある。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や上記に述べた「ジョブメドレーアカデミー」を利用し、虐待防止に努めている。また、年間の必須勉強でも時間も割いて日頃から不適切ケアが行われないよう考えている。	高齢者虐待についての関連法や認知症ケアについて『オンライン動画研修サービス』を取り入れ、研修を行っている。不適切な言葉遣いなど、気が付いた時に職員同士で注意し合い防止に努めている。年1回の職員面談で、要望や悩みを聞いている。また、日常的にも職員同士、ユニットリーダー、管理者へ気軽に相談ができるような環境ができています。管理者は普段から職員とコミュニケーションを図ることで、様子がおかしいなど感じた時には声がけし、悩みを聞くなど虐待に繋がらないよう配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	現状学ぶ機会がなく、動画サービス「ジョブメドレーアカデミー」で理解に努める。今後、身寄りのない方に成年後見人をつける予定であり、色々と話を伺い、今後の支援に努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書とともに説明を行い、変更、改定の際にはその都度説明により、理解、了承を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓越し面会での訪問の際に話を聞いたり、メールや電話でのやりとりを行い、意見を伺っている。	コロナ禍で面会を制限するなど、家族の意見や要望を聞く機会が限られており、主に電話やLINEでのやり取りで情報収集を行っている。衣類の交換、コロナワクチン接種などの質問が寄せられている。外出や外泊の問い合わせがあるが、現在は行っていない。運営推進会議の家族代表が欠員になり、委員になってくれる家族を検討している。家族会はない。	コロナ禍で家族とのコミュニケーションを取る機会を作るのは難しい状況にはあるが、連携をより深められるよう、窓越しの談話の他にもリモートなど工夫することを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や年間に2回（本社での意見吸い上げ、施設での定期面談）意見を汲み取る機会を設け、要望を聞いている。	年1回の職員面談や2ヶ月毎のユニット会議で、職員から意見や要望を聞いている。職員は各種委員会（環境・感染症対策・事故対策・身体拘束・行事・給食・防災・車両・備品担当など）に所属し、ホーム運営の役割を担っている。食事形態の変更提案があり、取り入れたことでむせ込みが見られなくなった事例や、歩行・転倒の危険についての話し合いから環境整備に繋げた事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格所得の為の受験費用助成にとどまらず研修受講費用助成も実現させ、また職員それぞれが抱える状況での勤務を実現している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部学習用「ジョブメドレーアカデミー」を職員に提供し、時間がすいた際に気軽に行えるように機会を提供している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍で交流機会をなかなか与えることができていないが、10月下旬より他事業所への交換研修、チームつばめを通して交流の機会を設けている。	地域包括支援センター主催の「チームつばめ」に参加することで同業者などとの交流が図られ、ネットワークが広がった。同法人内での交流や異動により、他事業所の運営を学び参考にし運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に収集した情報を基に介護計画をスタートさせるが、その後も観察、聞き取りを継続し再アセスメントすることで課題をより明確にしよりよいケアに繋げてゆく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みや調査時においてご本人の情報収集にとどまらず 現状の困りごと、不安なことをお聞きしてともに解決策を考える。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	暫定プラン後の再アセスメントで課題解決の優先順位を明確にしケアプランに落とし込み支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることに着目し可能な限り家事など役割を分担し関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においても中庭からの面会やリモートを使った面会を実施して直接的なものではないが行えるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等で馴染みの場所にはいけないが、リモートを使ったタブレットをつなぎ支援に努めていきたい。	コロナ禍以前には、近くにある馴染みの食堂やスーパーで買い物を楽しんでいた。協力施設で行われる花火大会の見学もコロナ禍で中止となり、中庭で行った花火を録画し、みんなで見賞している。今後はもっと馴染みの外の風景の動画などを視聴することで、行った気分になれる「バーチャル外出」なども検討している。理・美容の訪問は、コロナ禍前には行われていたが、現在は、理・美容経験のある職員が家族同意のもとで行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を考慮しリビング内での席位置など配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談、問い合わせがあれば退所後であっても出来る限り、相談や支援に努めていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人、ご家族の希望やご意向を聴取するが叶わない場合や逸脱する場合にはあくまでご本人の利益を代弁する立場として支援していく。	入居前の実態調査で本人の思いや意向について把握するように努めている。入居後は、日々の生活の中から意向を把握し、3ヶ月毎のモニタリングで振り返りを行っている。本人が希望することは、出来る限り実現できるように取り組んでいる。思いや意向の把握が困難な利用者からは、声かけや表情・仕草から把握し意向に沿うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前聞き取りにとどまらず、ご家族等面会時においても随時情報収集に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃より状態変化に留意し観察を行っている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からの移行聴取はもとより日々近くで接しているスタッフとのカンファレンスにより課題を導きだし計画に反映させている。	担当職員の意見を基にカンファレンスやケア会議をユニット毎に開催し、かかりつけ医や訪問看護師、家族からの意見を反映したケアプランを作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月に1回見直しを行っている。また、体調の変化に応じて、都度見直している。見直し後は家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や適宜スタッフから情報提供を受け意見を求め計画に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護保険サービスにとどまらず可能な限り便宜を図り暮らしを支えていくものと心している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会長、民生委員、地域包括などから地域情報を得、行事、防災での参考にしている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週1度の訪問診療と週に1度の訪問看護により健康管理が行われている。また、必要に応じて専門の病院に職員、家族さまとともに受診に伺い適切な治療を行えるよう支援に努めている。	入居時に、日常の健康管理体制について説明している。夜間帯の救急対応等を鑑み、ほとんどの入居者が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回の訪問診療と週1回の訪問看護師による健康管理は、利用者や家族の安心に繋がっている。専門医への受診は、家族と一緒に職員も同行し、適切な治療が受けられるよう支援している。受診結果は、職員間で回覧し情報共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調面の気づきについて相談先として助言を求め日常のケアに生かしている。必要に応じ訪看より医師への連絡も行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	協力病院の地域医療連携室と連携を行うこととしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に説明了解を得るとともに、重度化した際には、医師、ご家族、施設で再度方針を協議し文書による意思確認を行っていく。また、往診契約時には家族様へ医師の方から終末期についての説明が行われている。	入居時に「重度化および看取りに関する指針」を説明している。重度化にともない再度、家族、医師、職員で話し合い意向を確認している。利用者や家族と信頼関係を築き、医療機関との連携が構築されており、安心してホームで終末期を迎える利用者が多い。職員はユニット毎に「看取りに関する研修」を行っている。故人を見送る際には、他の利用者にも十分に配慮した取り組みを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で人が密になる状況での実施が難しく行われていない。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員が薄手の夜間を想定し年2回の避難訓練を実施。今年度はコロナ禍のこともあり、消火器取り扱い訓練は行っていない。	火災、風水害、地震対応マニュアルを作成し、防災委員会を中心に年2回夜間想定での避難訓練を実施している。夜間に地震が発生した場合は、震度5以上は全職員、5弱以下では管理者・防火管理者が駆けつける体制がある。設備点検は年2回業者が行い、非常用食料は3日分備蓄されている。感染症対策マニュアルも作成され、感染が発生した場合には陰圧室が作れるよう陰圧機も備えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	若年性認知症の方もおられ羞恥心や自尊心に配慮したケアや接遇を求め信頼関係が出来ても一定の節度をもって接することとしている。	接遇やプライバシー保護について新人教育時や、年間研修で繰り返し学んでいる。排泄介助はさりげなく居室などに誘導し対応している。身体的拘束等適正化委員会でスピーチロックについて「命令や禁止口調はどんな時に出やすいか」、「ストレス解消の方法は」などを話し合い、より良いケアについて検討している。呼び名は、名字や名前に「さん」をつけて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コンプライアンスルールを推奨し、職員からの一方的な支援にならないように気を付けて声を掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に流されることなくご本人のペースを尊重し寄り添えるよう心掛ける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やクリームをつけたり、髪留めをつけたりと支援行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年中行事に合わせた行事食の提供や予定に固執することなく希望のメニューが可能なら提供しており可能な方には取り分けや下膳をお願いしている。	朝食は職員が作り、昼食と夕食は業者に委託している。利用者一人ひとりの好みを把握し、メニューに取り入れたり、「食品10品目シート」を活用して栄養バランスのとれた食事を提供している。中庭の畑で収穫した旬の野菜も取り入れている。行事食は行事委員会が計画し、お正月、ひな祭り、花見、土用のうなぎ、クリスマスなど、四季折々の料理を楽しんでいる。希望により、お寿司の出前を頼むこともある。利用者と一緒に盛り付けや後片付けなど、楽しみながら役割を担っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「低栄養改善10品目シート」を活用し栄養バランスを考慮しつつ水分摂取については常に代替品の検討を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにより歯磨きを行うが不十分な方については職員が仕上げを行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	可能な限りトイレ排泄を支援、排泄状況表を利用して排泄パターンや失禁状態の把握に努め、トイレ誘導を行っている。	利用者一人ひとりの残存能力や排泄パターンを把握し、夜間も含め声がけやトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援している。便秘対策として体を動かすレクリエーションを多く取り入れたり、乳製品や料理にオリーブオイルを使うなど、できるだけ自然排便ができるようにしている。医師の処方をもとに薬を服用する利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況、間隔を把握し、医師、看護師の指導のもと水分摂取や運動により防止、改善に努めている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴が出来るよう支援体制はとっているが、ご本人状態や意向により柔軟に対応している。また以前未設置のリフトを設置し多くの方が湯舟に入れるよう対策を施した。	入浴は週2回を基本とし、季節に応じて桃湯や柚子湯などを楽しんでいる。湯は必要に応じて替え、好みの湯温で入ることができる。浴槽にリフトを設置し、車椅子の利用者も湯船に入れる。入浴拒否の利用者には、無理強いせず、タイミングを見て声がけしたり、家族からも声がけをしてもらうなど清潔保持に努めている。お風呂で歌いたい人には専用のラジカセも用意し入浴を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体力的に低下している方は医師指示により積極的に休息時間を設けることが基本的にはご本人の生活ペースに任せている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ごとに袋に管理し1日分毎にセット、飲み込みまでを服薬介助としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さまそれぞれに役割を持ってもらい、茶碗洗いや茶碗拭き、洗濯量やお盆拭き等を手伝ってもらい、午後からはレクリエーション提供を行い、笑顔が常時みられている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭にての日光浴や玄関先までの散歩を行っている。不安が強い方へは道路散歩も行っているが、基本的にコロナが落ち着くまでは自粛につとめる。	コロナ感染症対策のため、外出は自粛しドライブが中心になっている。ドライブには車椅子利用者も一緒に出かけている。花見ドライブでは、人が少ない所で車から降りて写真を撮り楽しんだ。紅葉狩りドライブも計画している。中庭での花や野菜作り、草取り、敷地内を散歩し気分転換をしたり、室内レクリエーションを増やすなど工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望があれば少額を自己管理いただき使う場面では職員が付き添い助言見守る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を保有することに制限はなく自らかけられるのであれば職員が支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	10年以上経過した建物ではあるがリフォームを行い清潔保持はもとより広い空間を維持、浴室には入浴リフトを設置するなど利用される方々の利便性に配慮し運営している。	リビングには天窓があり、日当たりが良く気持ちの良い空間になっている。中庭は、両ユニットから出入りができ、コミュニケーションスペースになっている。リビングの壁には、日めくりカレンダーや時計、季節に応じて利用者の作品が飾られるなど、環境委員会を中心に工夫している。カラオケはテレビにつなげることができ、朝から楽しんでいる利用者もいる。温・湿度、換気の管理は職員が行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居当初こそ居場所の確保として席を決めて対応したが、いまはそれぞれの方がそれぞれに座り、暮らしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の身の回り品については出来れば新調せず使い慣れたものをご持参いただくようにお話ししておりテレビなどの持ち込みについても制限を設けていない。	居室には、ベッド、カーテン、クローゼット、洗面台、エアコン、ナースコール、スプリンクラー、火災報知器が備え付けられている。利用者は入居時に馴染みの布団やぬいぐるみ、位牌などを持ち込み、安心して暮らせるよう配慮している。入り口にはネームプレートや利用者の作品が飾られ、わかりやすい工夫も取り入れている。また、利用者の要望で写真付きの職員一覧表を貼っている部屋もある。職員が掃除や温・湿度、換気の管理を行っている。季節毎に衣替えの衣類を家族に持参してもらい、職員が入れ替えし整理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いす自走であったり、介助による歩行、家事・炊事の手伝い、洗濯物たたみなど出来ることを生活リハビリと捉え継続していけるよう配慮支援している。		